

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校		達成度（評価）							
			A : 十分達成できている B : おむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である							
1 前年度 評価結果の概要	<p>・基礎学力向上のためにスキルタイムの内容の見直しを図り、週2回実施した。児童が音読や計算に熱心に取り組む姿が見られた。また、同時並行で授業づくりにも取り組んだ。話し合い活動の工夫を行い、児童の主体性、思考力、表現力を高める取組を行った。</p> <p>・学校全体が落ち着いた雰囲気の中教育活動が行えた。コロナの状況も落ち着き、様々な教育活動も制限なく行うことが可能となった。中でも毎月の生活朝会は、全校児童が体育館に一同に会し、担当教員から生活の話を直接聞く機会である。時には寸劇やクイズ等の工夫をしながら子供達の心に残る指導を心掛けてきた。その結果、元気にあいさつをしてくれる児童も随分と増え、明るい学校となつた。</p>									
2 学校教育目標	夢に向かって共にのびる児童の育成 ～かしこく やさしく たくましく～									
3 本年度の重点目標	<p>①スキルタイムの工夫と児童の実態に合わせた授業づくり等により、児童の基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②職員間の共通理解のもと、生徒指導事案の組織的に対応することにより、落ち着いた学校をつくっていくとともに、児童が自分の夢や目標に向かって前向きに努力したいと思える教育活動を進めていく。</p> <p>③体育の時間の充実や休み時間の外遊びの奨励により、児童の体力アップを図ると共に、様々な体験活動や地域との交流を通して自分に自信をもち、チャレンジ精神と粘り強さ、郷土愛を育てる。</p>									
4 重点取組内容・成果指標	中間評価		5 最終評価		主な担当者					
(1)共通評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価						
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着と学習意欲の向上	○客観的データにより、漢字や計算スキルの向上がみられた導入の工夫や話題を洗い出すと共に、全学年において学力向上につながる具体的な手立てを講じているところである。 ・全国調査、県調査の結果を参考し、本校の課題を洗い出すと共に、全学年において学力向上につながる具体的な手立てを講じているところである。 ・国語、算数のCRTの結果は、全国平均に達していたのは、1年国語、算数、2年算数であった。 ・長文を読んで要点をまとめたり、図や式を説明したりする問題に課題が見られた。 ・今後は、家庭学習の工夫や1人1台端末の効率的な活用をさらに進めたい必要がある	B	・全国調査、県調査の結果を参考し、本校の課題を洗い出すと共に、全学年において学力向上につながる具体的な手立てを講じているところである。 ・国語、算数のCRTの結果は、全国平均に達していたのは、1年国語、算数、2年算数であった。 ・長文を読んで要点をまとめたり、図や式を説明したりする問題に課題が見られた。 ・今後は、家庭学習の工夫や1人1台端末の効率的な活用をさらに進めたい必要がある	B	・授業の中で児童同士が学び合う場を設け、考え方などを伝え合うことでお互いの学力が高まるのではないか。 ・要点をまとめる力を養うには、自分が読んだ本を紹介する活動が効果的だという事例がある。学習の中で取り入れてみるのも良いのではないか。 ・優れた文学作品に触れさせ、繰り返し声に出して読むことも大切な学習である	B	学力向上コーディネーター 研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上	A	・年間3回の人権教室(集会)をはじめ、道德や様々な教育活動の中で、児童の人の人権意識を高め、思いやりの心を育てる。	A	・よくできている「だいたいできている」を合わせて、友達と仲良くできている児童96%、あまりを守って生活できている児童96%であった。(児童アンケート結果)引き続き児童の様子を見守りていきたい。	A	・友達と仲良くできている児童96%、あまりを守って生活できている児童97% (児童アンケート結果) ・みんなが幸せになる学校」を合言葉に1年間、指導してきた。小さなトラブルはあるが、子供たちは落ち着いた生活ができる。	A	人権・同和担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的対応ができる」と答える教師を90%以上	A	・児童の発達段階に応じた予防的開発的生徒指導に努め、毎月の「いい日アンケート実施、毎週の職員連絡会での情報共有や協議等、全職員による組織的対応を行っている。	A	・いじめ未然防止、早期発見、組織的対応に努めている職員100% (職員アンケート結果)。毎週の職員連絡会での情報共有や協議等を行っている。今後も継続して取り組んでいく。	A	・いじめ未然防止、早期発見、組織的対応に努めている職員100% (職員アンケート結果) ・毎月「いい日アンケート」を実施し、気に入る事業については、聞き取りや指導を行った。 ・担任だけではなく、学年、学校全体で共通理解を図り、取り組むことができた	A	生徒指導部
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのようにところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	A	・毎月の「いい日アンケート」の結果をもとに担任が児童と面談を行う等、児童の思いや願いを聞く機会を作ることで、児童が自分の目標について考え、そのために何をどう頑張るのかを考え、振り返る機会を作ること。	A	・先生は、あなたのようにところをわかつてくれていると思う児童89.5%、自分の夢や目標をもつていている児童89.1% (児童アンケート結果)であつた。今後も児童一人一人を大切にした指導を継続して取り組んでいく。	A	・先生は、あなたのようにところをわかつてくれていると思う児童93%、自分の夢や目標をもつていている児童89% (児童アンケート結果)であつた。 ・中間評価よりやや向上しているかはほぼ同じ結果となっている。今後も取り組みを工夫していく	A	教頭、各学年主任 (※ 各学年主任)
	○進んで元気なあいさつができる児童の育成	○「自分からあいさつができる」と答える児童90%以上を目指す。	B	・クラスや全校で「あいさつ名人」を紹介する機会等により、進んであいさつしようとする意欲を高める。	B	・友達や先生、地域の人などに自分からあいさつしている児童90.1% (児童アンケート結果)。あいさつをより方については今後も、クラス単位や全校単位での取り組みの継続と向上を目指したい。	B	・吉野ヶ里町が主催している地域の方々と6年生が語り合う「大人としゃべり場」という催しがあった。その後、子供たちから地域の方へは、自ら進んでできない児童も見られる。今後も、取り組みを継続し、更なる向上を目指したい。	B	生徒指導部
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と答える児童85%以上 ○「毎朝、朝食を食べて登校している」と答える児童が90%	B	・食育時間の実施、学級活動での食育推進、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	B	・「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、83%で県平均とほぼ同じである。「朝食を食べている」児童は92% (11月)で1学期と同じだったが、昨年度は88%なので、4%増えている。3学期の給食週間や生活(学習)がんばろう週間に、児童や家庭を啓発していった。	B	・朝食を食べている児童は割を超えて、見すると改善しているように見えるが、「健康によい食事ができている」と答えた児童は94% (児童アンケート結果)で前よりもやや上回った。その後、子供たちから地域の方へは、自ら進んでできない児童も見られる。今後も、取り組みを継続し、より改善することが増えたように思う。来校時にもよくあいさつしてくれる児童が増えた。	B	保育部(食育)
	○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	○「休み時間、元気に体を動かした」と答える児童75%以上 ○「早寝」「早起き」の児童の定着率70%以上	B	・運動の効果を伝え、外遊びを奨励する。 ・自分の生活習慣を見直し改善を促す学習活動の実施、保健だよりの発行	B	・休み時間に元気に体を動かしている児童77%、毎日早寝・早起きができる児童67% (児童アンケート結果)。休み時間に運動委員会による外遊び奨励の放送を行っている。今後も、取り組みの継続と向上を目指したい。	B	・休み時間に元気に体を動かしている児童74%、毎日早寝・早起きができる児童80% (児童アンケート結果)。早寝早起きについては中間より少し向上している。今後も、取り組みを継続したい。	B	保育部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(時間外勤務の月平均を45時間以内にする。)	A	・退勤の目途を18時半とし、19時までの退勤の徹底を図る。 ・週に1回以上、「マイ定時退勤日」を設定し、実施に努める。	A	4月～11月の職員の時間外勤務時間が昨年度に比べると月平均5時間ほど減少している。今後も退勤时刻を意識した声かけ等を行い、更なる残業時間の削減に取り組む。	A	・4月～11月の職員の時間外勤務時間の月平均は19時間23分。昨年度の同時間と比べると平均10時間程度短くなっている。 ・要注意45時間超の職員数の平均は2.8人。今後も要注意45時間超えを0にする取り組みが必要である。	A	教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の勤務状況の改善	○「勤務状況の改善が図れた」と答える教師を70%以上	A	・定期的に衛生委員会を開き、課題の洗い出しとその解決に努める。	A	・職場環境の改善が図られているか肯定的評価した職員は100%であった。今後も校時や行事等の見直しを継続していく。	A	・職員アンケートによる職場環境の改善が図れていると思うと回答した職員は100%であった。 ・職員から水曜日の朝の活動時間の確保の要望があり、校時の見直しを図った。今後も職員の意見を聞きながら改善に努めたい。	A	教頭
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対応できることができたという教師90%以上	A	・児童理解の会による職員間の共通理解 ・特別支援教育に係る研修会の実施	A	・特別な配慮を要する児童の理解と対応について肯定的な回答をした職員は、100% (職員アンケート結果)。研修会の実施や職員間の相談体制を整えるなど継続して取り組む。	A	・職員が子供たちの成長を辛抱強く見守りながら、日々の学習活動に取り組んでいる。児童の様子を見ていると一生懸命に活動に取り組んでいる様子が見られ、感動させられるような場面にも出合えることがで、子供たちの成長を感じることができた。	A	特別支援教育コーディネーター
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	<p>・今年度、1人1台端末を活用した授業改善と基礎学力の定着の2本柱で研究を進めてきた。1人1台端末を活用した授業では、多くの学級で試行錯誤をしながら取組としては、「東脊振小スタイル」と称して、授業の流れを統一し取組を行ってきた。また、週2回のスキルタイムを継続して行い、児童が音読や計算に熱心に取り組む姿が見られた。今後は、校内研究の成果と課題を踏まえ、校内研究の在り方そのものにも焦点をあて、更なる授業改善と職員のスキルアップを図っていきたい。</p> <p>・大きな問題行動等なく、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。今年度は「みんなが幸せになる学校」を合言葉に、職員や児童が同じ思いをもって日々の活動を行ってきた成果である。また、職員が互いに相談しやすい雰囲気があり、小さな問題に対しても組織で対応できることも要因である。今後は、生徒指導的な問題について共通理解を図る時間を確実に設け、全職員で対応することをさらに進めたい。</p> <p>・今年度からコミュニティスクールとしての取組を始めた。学校運営協議会では、子供たちのために何ができるのか活発に意見交換がなされた。今後は、地域の企業や人材等の発掘を行い、様々な体験活動や地域との交流活動を教育課程に位置づけ、学校を中心とした子供も親も地域も元気になるようなコミュニケーションづくりをめざすとともに、児童の豊かな人間性とともに郷土愛を育んでいくような教育活動を工夫していきたい。</p>									主な担当者
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・今年度、1人1台端末を活用した授業改善と基礎学力の定着の2本柱で研究を進めてきた。1人1台端末を活用した授業では、多くの学級で試行錯誤をしながら取組としては、「東脊振小スタイル」と称して、授業の流れを統一し取組を行ってきた。また、週2回のスキルタイムを継続して行い、児童が音読や計算に熱心に取り組む姿が見られた。今後は、校内研究の成果と課題を踏まえ、校内研究の在り方そのものにも焦点をあて、更なる授業改善と職員のスキルアップを図っていきたい。</p> <p>・大きな問題行動等なく、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。今年度は「みんなが幸せになる学校」を合言葉に、職員や児童が同じ思いをもって日々の活動を行ってきた成果である。また、職員が互いに相談しやすい雰囲気があり、小さな問題に対しても組織で対応できることも要因である。今後は、生徒指導的な問題について共通理解を図る時間を確実に設け、全職員で対応することをさらに進めたい。</p> <p>・今年度からコミュニティスクールとしての取組を始めた。学校運営協議会では、子供たちのために何ができるのか活発に意見交換がなされた。今後は、地域の企業や人材等の発掘を行い、様々な体験活動や地域との交流活動を教育課程に位置づけ、学校を中心とした子供も親も地域も元気になるようなコミュニケーションづくりをめざすとともに、児童の豊かな人間性とともに郷土愛を育んでいくような教育活動を工夫していきたい。</p>									